



海外旅行を楽しむために 出発前の感染症対策を

令和6年7月24日
富山県感染症情報センター
(富山県衛生研究所内)
(0766-56-5431 直通)

感染症発生動向速報

(令和6年第29週分・7月15日～7月21日)

《インフォメーション》

●海外で注意すべき感染症

この夏、長期休暇を利用して海外に行かれる方も多と思います。楽しい思い出にするためにも、海外で感染症にかからないよう気をつけることが重要です。出発前に感染症の予防方法を今一度ご確認ください。

注意すべき感染症は渡航先によって異なります。最も罹患する可能性が高いのは、食べ物や水を介した消化器系の感染症(旅行者下痢症、A型肝炎、E型肝炎、コレラ、赤痢、腸チフスなど)です。発展途上国など公衆衛生の整備が不十分な地域へ行く際は注意が必要です。十分に加熱処理がされていない物(生水、氷、カットフルーツ、サラダ、生鮮魚介類など)の飲食は避けましょう。

海外では、麻しん、風しんおよびポリオが流行している地域があります。現在、南アジア、東南アジア地域での麻しんの症例報告数が多くなっています。流行地域で麻しんや風しんに罹患し、国内に持ち込まないために、渡航前にワクチン接種歴を母子手帳で確認し、2回接種していない場合は予防接種の検討が勧められます。

東南アジア、南米、アフリカなどの熱帯・亜熱帯地域では、蚊が媒介する感染症(デング熱、マラリア、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、黄熱など)が流行しています。2024年はマレーシア、ベトナムでのデング

熱患者報告数が多くなっています。現在、これらの蚊媒介感染症は国内では流行していません。海外で感染し、帰国後に発症する症例が報告されています(表参照)。流行地へ旅行する際は、長袖・長ズボンを着用し、虫除け剤を利用するなど、蚊に刺されないように注意しましょう。

また、動物を介して人に重篤な症状を起こす、動物由来感染症(中東呼吸器症候群(MERS)、狂犬病、鳥インフルエンザなど)もあります。むやみに動物に触れるのはやめましょう。

帰国後に症状が出た際は、感染拡大防止のため、医療機関を受診する前にあらかじめ電話で症状と渡航歴を伝え、医療機関の指示に従って下さい。

《全数報告の感染症》

- 二類感染症 結核 3件 (①第28週診断分:90歳代、男性 ②30歳代、女性 ③70歳代、女性)
- 四類感染症 レジオネラ症 1件 (第28週診断分:70歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む) 1件 (40歳代、男性)
- 梅毒 1件 (第28週診断分:20歳代、女性、早期顕症梅毒Ⅱ期)
- 破傷風 1件 (30歳代、男性)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	手足口病	21.76 (↓)	21.93
2位	COVID-19	9.85 (↑)	8.02
3位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.93 (↓)	3.17
4位	感染性胃腸炎	2.69 (↑)	2.62
5位	RSウイルス感染症	2.41 (↓)	2.93
6位	ヘルパンギーナ	1.14 (↓)	1.55

富山県感染症情報センターURL: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>

※第9週分以降、URLが変わりました



蚊が媒介する主な感染症の報告状況(全国)

診断年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年*
デング熱	461	45	8	98	176	104
マラリア	57	21	30	31	36	22
チクングニア熱	49	3	0	5	7	2
ジカウイルス感染症	3	1	0	0	2	0

*第28週(7/8~7/14)現在

〇感染症発生動向調査報告状況（令和6年第29週 令和6年7月15日～令和6年7月21日）

分類	疾患	今週報告分（第29週）						累積報告数（令和6年第1週（1月1日）～）						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
二類感染症	結核					2	2	8	2	23	5	31	69	
	（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く					2	2	5	2	12	3	18	40	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症								1	3	3	3	10	
四類感染症	E型肝炎											1	1	
	レジオネラ症							2	1	7	1	15	26	
五類感染症	アメーバ赤痢											2	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症							1		3		8	12	
	急性脳炎									1		1	2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症							1		3	1	8	13	
	後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）					1	1				1	3	4	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									3	1	2	6	
	侵襲性髄膜炎菌感染症											1	1	
	侵襲性肺炎球菌感染症							2		1		4	7	
	水痘（入院例）							1	1				2	
	梅毒							1		4	4	9	18	
	播種性クリプトコックス症											1	1	
	破傷風			1			1				1		1	
	百日咳											1	1	
インフルエンザ／COVID-19定点（47定点）	インフルエンザ			5	2		7	1,067	1,029	4,040	1,563	5,068	12,767	
	COVID-19	105	41	135	79	103	463	1,556	879	2,662	1,492	2,311	8,900	
小児科定点（29定点）	RSウイルス感染症	3	6	33		28	70	39	59	423	35	287	843	
	咽頭結膜熱	2	2	4		7	15	87	248	656	34	663	1,688	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	3	46	3	28	85	172	166	2,502	302	1,193	4,335	
	感染性胃腸炎	21	2	17	2	36	78	681	619	1,359	652	3,138	6,449	
	水痘							2	11	105	9	57	184	
	手足口病	5	26	265	80	255	631	62	232	943	258	1,161	2,656	
	伝染性紅斑			1			1	1		8	1	8	18	
	突発性発しん	1		3		4	8	8	12	87	22	80	209	
	ヘルパンギーナ		1	10	3	19	33	64	15	67	17	127	290	
	流行性耳下腺炎					1	1	3	1	5	2	7	18	
	眼科定点（7定点）	急性出血性結膜炎										2		2
		流行性角結膜炎			1			1	8	1	28	5	9	51
	基幹定点（5定点）	無菌性髄膜炎										3		3
マイコプラズマ肺炎			2	1			3		2	8	1	1	12	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）			2.00	1.00			0.60				1		1	
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※1）							21	10	31	48	69	179	
	COVID-19による入院患者	7	4	7	12	18	48	124	114	89	154	390	871	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和5年第36週（9月4日）～の集計です。